

## 「東京東部地域の視覚障害教育のセンター校としての外部支援」

### 東京都立葛飾盲学校

本校は、幼稚部、小学部、中学部の三学部設置の視覚障害特別支援学校です。令和六年四月現在の在籍数は、幼稚部五名、小学部十二名、中学部十二名の計二十九名です。

都内の視覚障害特別支援学校は、国立一校、都立四校が設置されており、本校は、東京二十三区東部地域が主な通学区域です。併せて、同地域の視覚障害教育のセンター校としての責務を担い、視覚障害教育の理解推進、乳幼児・小学生・中学生の教育支援を行っています。

本校は視覚障害教育のセンター校として以下の四つの業務、①内部支援に関わる事業、②通級による指導、③外部支援、④理解推進事業、を挙げています。本稿では、そのうちの外部支援について紹介させていただきます。

本校は、地域に居住する子供たち、小・中学校に在籍する児童・生徒への教育支援を「外部支援」と称しています。以下に、その取組である乳幼児教育相談、小中学生支援、見え方の相談会を紹介します。

乳幼児教育相談は、0歳から就学前までの視覚に障害のある乳幼児と保護者の支援を行っています。乳幼児の視機能評価、育児、入園・就学に関する相談を、個別面談、小集団遊び、育児教室などの形態で実施しています。乳幼児の所属する保育所、幼稚園、療育機関より支援の依頼を受けることもあります。

地域の小学校、中学校、特別支援学校に通う小・中学生に対する支援は、対象児童・生徒の在籍する学校からの依頼を受けて実施しています。授業観察、視機能評価に基づき、学習の困難を軽減するための助言を行っています。

その他、小学生の教育支援について、足立区、江東区、葛飾区の区内小学校に在籍する小学生を対象に年一回、期日を決めて、見え方の相談会を実施しています。それぞれの区教育委員会と、足立区、葛飾区は区内弱視学級と共催で実施しています。平成二十四年より十二年間の取組で、毎年三区合計六十名より八十名程度の申し込みがあります。来談者への視機能評価を行い、困り感に即して、その軽減のための助言を行っています。

以上の外部支援の取組の中で、地域における視覚障害教育の専門性への潜在的ニーズが明らかになってきました。乳幼児期は視覚的ハンディーが見逃されてしまうことがあります。小・中学生の学習困難の背景として視知覚の課題が見逃され、単純に知的な問題と捉えられる傾向があります。このような子供たちに、必要な教育支援が届くよう、今後も視覚障害教育の理解推進に努めて参ります。